

会議結果概要書

1. 会議名	平成27年度 第3回名寄市上下水道事業経営審議会
2. 開催日	平成27年11月26日(木) 午後6時30分～午後19時30分
3. 開催場所	駅前交流プラザ「よろーな」 2階 会議室3
4. 委員	池会長(○)、山上副会長(×) 大野委員(×)、関委員(○)、扇谷委員(○)、伊豆倉委員(○)、 木田委員(×)、高木委員(○)、白木委員(○)、星野委員(○) 委員10名中7名出席 ※出席(○)、欠席(×)
5. 事務局	中村建設水道部長、天野建設水道部次長 安藤工務課長、小野下水処理場長、藤井浄水場長 野宮業務課主幹、佐藤業務課主査、山岸業務課主査
6. 議題等	協議1 今後の上下水道事業について
7. 会議結果	○協議 (説明) 上下水道事業の課題、水道事業経営診断結果、水道料金改定の考え方などについて事務局より説明する (質疑・意見など) ・第1回からの説明等に対する質疑・意見等を委員に伺う ・主な質疑、意見等については別紙のとおり ○次回開催日程の確認 (日程) 平成27年12月17日(木) 午後6時30分 (内容) 意見集約とまとめ、答申の方向性の確認

第3回名寄市上下水道事業経営審議会 主な質疑・意見等

1. 委員からの質疑等

問>水道事業の施設整備の課題として、老朽管更新は計画よりどのくらい先送りされているのか
答

- ・名寄・風連あわせて管渠延長 253Kmのうち、40年経過しているのが 63km
- ・耐用年数 40年も次から次と経過していく
- ・年平均で 3kmほど更新しているが、4kmほど老朽管となるので追いつかない状態。お金があれば追い越すこともできるが、急ぎたいが遅れてはいる

2. 委員からの意見等

①施設の老朽化も借金も課題を後回しにしても後の世代が苦勞するので現状を回避しなくてはならない

②料金改定には賛成

③支出を減らすことは現在の状況では厳しいので収入を増やすしかなく、利用者が負担していくべき。

(周知・説明・情報公開)

④-1 料金上がることの理由づけをしっかりと市民に理解をえるべき

④-2 広報は必要

④-3 ホームページ等にこの資料だしていけば情報公開もすすむ

④-4 地方の水道事業特有の課題等についても、利用者にお知らせしていく (以下4点)

・人口 3万人を超えたときに必要なインフラを整備して、遠くにいる人にも水をおくる。人のいないところも水をおくる非効率な事業である。

・都市部は人も張り付いている。地理的な不利益を抱えながら水道の普及率を上げていかななくてはならなかった。

・財産はたくさんもっている。施設は人口が減れば小さくなるものではないので、かけるお金も減らすことができない

・企業会計だが、人事権、人件費は市職員と同じ。企業会計とはいっても、会社経営のように人事などができない

(市に対する意見等)

⑤料金回収率をあげ、赤字をださないように計画をしてもらいたい

⑥納付している人に不公平感がないよう未納対策をしっかりとってもらいたい

⑦料金改定となるとどれだけ節約しているのかも見せていく

(節水についての認識)

⑧-1 水道料金を上げるためには、単価を上げるか、使用水量を増やすかである。使用水量を上げると節水についてどう考えていくべきか

⑧-2 学校の教育は節水。下水処理場も水を流しっぱなしでは処理場も大変だしお金もかかるので、水は大切にしようとは子供に教えている

⑧-3 できるだけお金を使わないというのは水道だけではなく、市民感覚としては根付いているものな

ので、水を使いましょうという PR は難しいのではないかと。

⑨料金上がると未納者も増えてしまうのではないかと。

3. 事務局からの追加説明

①滞納対策について

- ・未納対策の現状としては、督促、催告の他、電話かけなど顔が見える対応をしている
- ・99%に近い収納率となっている
- ・滞納額は横ばいと、滞納者も固定化している
- ・ライフラインなので話しあいをしながら対応している
- ・平成 26 年度消費税改定では前年より 0.1%収納率向上している

②節水について

・利用者が意識しなくても、洗濯機が従来より水を使わずにきれいに洗えるなど、機器が節水になっている。利用拡大してもらいたいが、社会常識として水資源と考えると節水すべきとなる。